

別海町バイオマス産業都市構想の概要

北海道別海町、人口 15,718人、面積 13.2万ha

構想の概要

全国一の酪農と一体となった大規模バイオガスプラント事業を軸に、水産系、食品系を含む総合的なバイオマス利活用による持続可能な循環型「食」のまちづくりを目指す。

1. 将来像

- ①バイオマス資源循環を軸にした環境にやさしく、持続可能な地域社会の実現
- ②エネルギー自給率の高く、災害に強いまちづくりと地域産業と環境が調和した低炭素社会の構築
- ③新たな産業による雇用創出と農林水産業の活性化

2. 事業化プロジェクト

- ①酪農と一体となった大規模バイオガスプラント事業
 - ・家畜排せつ物、水産廃棄物、生ごみ、乳牛汚泥等のバイオガス化(売電、余熱による施設園芸)と消化液の農業利用
- ②隣接する中標津町との広域連携モデルの構築(中長期)

3. 目標

【10年後のバイオガスプラント事業による目標(増加分)】

- ①バイオマス利用量
1,825t/年、8.2%(家畜排せつ物、水産廃棄物、生ごみ等)
- ②再生可能エネルギー調達量
売電量5,729~8,961MWh/年、自給率3.69~5.70%
- ③産業創出 年間売上高約4億円
- ④CO₂削減 2,778~4,346t/年

4. 地域波及効果

【バイオガスプラント事業の効果】

- ①新産業創出及び生産誘発額 7億1,500万円
- ②視察者増 2,000人
- ③雇用創出 25名
- ④温室効果ガス削減 2,778~4,346 t/年
- ⑤バイオガス発電量 5,729~8,961MWh/年
- ⑥廃棄物処分量削減 111,325 t/年

5. 実施体制

・別海町・三井造船が核となり、外部有識者、JA、農家等が参画した実施体制を整備

6. その他

・バイオマスタウン構想(H18.2)

